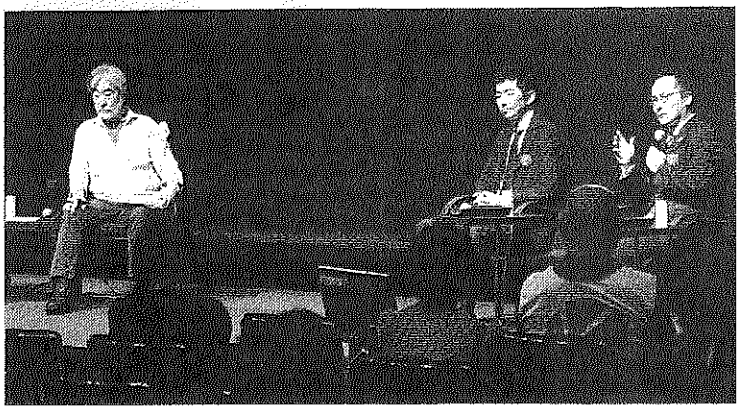
東京交通新聞 2019.9.30号

栄誉を機に全国拡大

子育てタク協会の支援サービス

★子育て支援NPOとの協業による広報活動や利用者
★交通事故以外のトラブルに対応した賠償責任保険を



キッズデザイン 少子化大臣賞受賞

全国子育てタクシー協会（本部・横浜市、大野慶太会長＝東宝タクシー社長）の「子育てタクシー」サービスが、2019年度・第13回「キッズデザイン賞」（主催＝NPO法人キッズデザイン協議会、後援＝経済産業省、内閣府、消費者庁）の優秀賞・少子化対策担当大臣賞に選ばれた。25日、東京・六本木アカデミーヒルズで発表・表彰式とシンポジウムが催され、大野会長は「認定ドライバー数、加盟社数ともにまだ少ない。受賞を起爆剤に全国へ広げたい」と意気込みを語った。

各地から集まった育児・教育支援関係者を前に、子育てタクシーをPRする大野会長（右端）。壇上左端が益田審査委員長（25日、東京・六本木）

子供の安全・安心と健やかな成長に役立つ製品、サービスなどをたたえる顕彰制度。シンポジウムで最優秀賞（総理大臣賞、1点）、優秀賞（経産、消費者、少子化、男女共同参画各大臣賞、計8点）を受けた9団体が、サービスの開発経緯や特長を披露した。

大野氏はドライバー養成講座などを紹介しながら、「公共交通機関でお客とおしゃべりするのはタクシーだけ。お客との関係性を深めることで子育て支援ができると考えた。運転者が、子供を見守る大人や孤独感を持つ子育て世帯のパートナーになっている」とアピールした。

子供だけで乗車する「ひよこコース」を挙げ、「保護者と事前に打ち合わせをする。保育園に迎えに行き、少しだけ付き添って忘れ物の確認などをする。子供としりとりをしたり、歌ってあげたり。子育て支援NPOの協力を得ている」と説明した。

審査委員会の益田文和委員長（オープンハウス代表）と橋田規子委員（芝浦工業大学教授）が講評し、益田氏は「運転者全員の必修にすべき。日本ならではのすごく良いサービス」と絶賛。橋田氏は「（運転者にとって）心が広くなるなど、人間的に成長する機会になると思う」と話した。

大野会長は内閣府の藤原崇政務官（少子化対策担当）から表彰状を受け取った。先立ってキッズデザイン賞を受賞したのは263点。この中から最優秀、優秀、奨励など33点に絞り込まれ、子育てタクシー協会は「子どもたちを産み育てやすいデザイン」の地域・社会部門として入選した。

最優秀賞・総理大臣賞は、「Terada3DWorks」の「フライングディスク運動型STEAM教育プログラム」。子供たちが円盤を飛ばして飛行の特性を体感し、3Dプリンターで再現するといったプログラム。優秀賞は「おしごと体験広場・キッズハローワーク実行委員会」の職業体験プログラムなど。

タクシー・バス関係でこれまでキッズデザイン賞を受けたのは、日本交通（東京・千代田区）の「エキスパート・ドライバー・サービス」（第9回・15年度、優秀賞）、千葉県流山市と高砂福祉会の「流山市×TakaSaGo駅前送迎保育ステーション」（第10回・16年度、奨励賞）などがある。